

気が付けば今年もあと僅かとなってしまいました。冬支度もひと段落し、色々な意味で季節を味わうことができた1年だったと感じています。今年はお六櫛の販売できるところまでは技術が身についたので、販売を開始しました。木祖村はシーズンになると旅行者が通ったり、お六櫛の実演や体験のイベントの需要を感じました。実演や体験、販売をすると、自分がやりたかった「エンドユーザーとの対面での仕事」が始まったと実感することができました。また、中山道もあることから旅行者とのやり取りも面白さの一つだと感じています。今秋は、イベントの要請が多く宿場内での実演販売を行うことができませんでした。協力できる方がいましたら、声をかけてください。来年は自分の工房を何とか手配して定住のための活動も行っていきます。まだまだ準備不足ではありますが木祖村に定住する準備は進めているので、アドバイスなどいただけたらと思っています。(井上)

お六の櫛のエトセトラ



今年もお世話になりました

地域おこし新聞

木祖村地域おこし協力隊員による

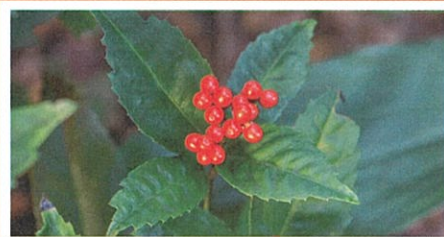
12,1月号

モノ創りの村を志し、
木工振興担当桑葉の

続

木

育ひとりごと



木祖村地域おこし協力隊

@ kisomura_okoshi

@ kisomura_okoshi

@ kisomura.okoshi

お問い合わせは上記 SNS
や、下記メールへどうぞ！

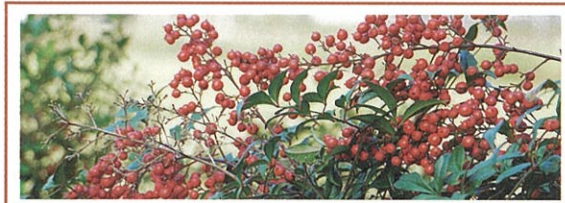
kisomura.okoshi@gmail.com

地域おこし新聞のバックナンバーや地域紙の特別掲載、最新映像など、協力隊の情報が盛りだくさん！！な、公式ホームページも是非ご覧くださいませ◎(上のQRコードよりHPをご覧くださいませ。)



早いことで師走になりまして。山の雰囲気も冬模様になりつつあります。年末年始はイベントが多々ありますが、そこにも樹がたくさん登場してきます。行事順にざっと紹介

すると冬至には柚子（ユズはミカン科ミカン属の常緑小高木）、柚子湯になります。クリスマスにはモミの木（マツ科モミ属の常緑針葉樹）、ツリーとリースに使います。お正月ではセンリョウ（センリョウ科センリョウ属に属する常緑小低木の1種）、ユズリハ（ユズリハ科ユズリハ属の常緑高木）、正月飾りの縁起物。南天（メギ科ナンテン属の常緑低木）難を転ずる縁起物。松（マツ科マツ属に属する常緑高木）正月飾りの定番、竹（イネ目イネ科タケ亜科に属する植物）門松になります。ちなみに木ではないよ。私たちの風習にはこんなにも沢山の自然が共存しています、改めて感じてみるのもどうでしょうか。



農事風土記

農業担当の丸山隊員が農業にまつわる風土や文化、その他諸々について語ります

今回のお話は「農家と野菜の冬支度」です。

雪が降る前の晴れた日に、収穫したネギや白菜を外に出して乾かす。丸山隊員が話してくれたのは、そんな冬を迎える前の農家の風景でした。野菜を外気にさらすのは、特別なことではなく「基本的には乾燥させているだけ」だといいます。菌類の繁殖には水分が必要なため、表面の水分を飛ばすだけでも腐りにくくなり、冬の間、長く食べられる状態を保てるそうです。一方で、野菜は収穫後も生きていて、呼吸を続けるため、保存している間に栄養価は少しずつ下がっていきます。「今なら買った



方がいいという考え方もある」としつつ、寒い時期に買い物に行かずに済むことや、もらった野菜を無駄にしない工夫として、こうした冬支度が続いてきた背景にも触れていました。農家の冬支度は、派手な技術ではなく、その土地の気候と野菜の性質に合わせた、ごく日常的な知恵なのかもしれません。